

# L'aile d'Howl

【ライル・ドウル：ホウルの翼(伝語)】

2014年11月号

No.100



ついに日本リーグ開幕！海外へ活躍の場を移す選手も多い中、今年のリーグはどのような展開になるのか楽しみです！

**創刊 100号記念!!**  
**ありがとうございます☆**

## 第39回日本ハンドボールリーグが開幕！ 岩手で開幕戦2試合が開催される！

10月25日、いよいよ第39回日本ハンドボールリーグが開幕！そして、記念すべき開幕戦がなんと岩手県で開催されました。嬉しいことに、今回岩手県営体育館では、男女の試合が組まれ、岩手県はもとより、東北の近隣県からも多くの観客が試合を観戦に訪れました。



10時からの開場に合わせ、まずは恒例の小学生による前座試合。今回は、地元盛岡市に拠点を置くリトルハンドさん、そしてお隣の滝沢市のヴォールペ滝沢の2チームによる対戦となりました。U-10の部、そして高学年の部をそれぞれ男女混合で行い、会場を盛り上げました。特に、今回は来年度から正式採用される小学生向け新ルールにて実施したため、展開が速く、観ている人たちにとっても面白い試合だったのではと思います。なお、この試合は、佐藤夢良くん、藤原光寿くん(共に不来方高3年)のヤングレフェリーが担当してくれました。

さて、いよいよ女子の試合で、ついに今シーズンの日本ハンドボールリーグの火蓋が切られました。北國銀行と三重バイオレットアイリスの対戦。1084人の観衆が見つめる中、三重のスローオフでゲーム開始。序盤から北國銀行は堅いDFを見せ、相手のミスを誘うと速攻から連続得点。早くも試合のリズムを掴み始めます。三重は、現在日本代表に名を連ねる若きエース原希美選手が、ステップシュートフェイントから切り替えてシュートを決めるなど、粘り強い攻撃で応戦。しかし、北國銀行はその後速いパスワークから得点を重ね、前半を15-7と8点リードして折り返します。後半に入っても、北國銀行は6-0DFで中央を堅実に守り、三重のミドルシュートをことごとくブロック。相手のミスからサイドの八十島選手が速攻を確実に決め、終わってみれば31-17で北國銀行が開幕戦を手堅く勝利しました。

続く男子の試合は、ここ岩手県を第2のホームとする大崎電気と、沖縄の琉球コラソンの対戦。試合開始に先立ち、岩手県出身である大崎電気の大崎良彦コーチ、馬場佑貴選手(共に不来方高OB)、琉球コラソン所属の中村彰吾選手(盛岡三高OB)に花束が贈呈されました。

さて、試合序盤は琉球コラソンペース。東長濱選手のミドルシュートを皮切りに、棚原選手、名嘉選手などが連取しリードを広げます。対する大崎電気は、信太弘樹選手が奮起し、ロング、サイドからの回り込みミドル、フリースローからのシュートなどで追い上げを図ります。高めのDFを敷く琉球コラソンはその後リードを保ち、12-9で後半に臨みます。後半に入っても、大崎・木村GK、琉球・内田GKが共にナイスセーブを連発し、点差が全く開かないまま終盤へ突入。琉球コラソンの高いDFの隙をついたポストプレー、また、宮崎大輔選手がサイドに回り込んで逆スピンシュートを決めるなどして、ついに大崎電気も同点に追いつきます。ラスト1分、大崎・元木選手がDFをブラインドにしてサイドスローシュート。これがゴールに突き刺さり、決勝点に。最後は棚原選手のノータイムフ



続いた。

続いた。



リースローを大崎がブロックし、25-24 で辛くも勝利を収めました。最後までどうなるかわからない熱戦に、1402 人(公式発表)の観衆は大きな拍手を送っていました。残念ながら、岩手県出身選手は出場機会がありませんでしたが、これからのシーズンで大きく活躍してくれることを期待しています。

<試合結果>

北國銀行 31(15-7、16-10)17 三重バイオレットアイリス  
大崎電気 25(9-12、16-12)24 琉球コラソン

**県高校新人戦で女子・花巻南が準優勝！男子・花巻北が3位！**

11月9日～11日に、第58回岩手県高校新人ハンドボール大会が花巻市総合体育館ほかで開催されました。会場確保の都合により、平日開催となった今大会。通常よりも観客が少ない中でも、春の高校選抜大会に向けたシード権を争う重要な大会で、出場した高校生たちは非常に素晴らしい熱戦を繰り広げてくれました。



男子の部は、先日の高校秋季大会でベスト4だった盛岡南高を、地元・花巻北が28-22で破り、見事に優勝候補の一角を崩しました。花巻北の勢いは衰えず、続く盛岡市立戦にも勝利し、準決勝の舞台に駒を進めます。逆ブロックからは、盛岡四高が延長戦の末、盛岡中央高を下しベスト4入り。花巻南は、盛岡一高に対し前半リードするも後半に逆転を許し、25-23で敗退し、惜しくも準決勝進出の切符を勝ち取ることができませんでした。迎えた準決勝、花巻北は登録メンバー9名中8人が1年生という布陣で挑み、不来方高が退場者を出さずに必死に追い上げを図りますが、やはり選手層の厚い王者には及ばず、36-24で敗退しました。別ブロックでは、こちらも少数精鋭で戦う盛岡一高が盛岡四高と対戦しますが、前半19-5とつけられた大差を詰めることができず、決勝進出を逃しました。決勝は、久しぶりに勝ち上がってきた盛岡四高と不来方の顔合わせ。前半を5点差で折り返すと、後半盛岡四高の追い上げをなんとか凌ぎ、前半のリードを死守して優勝！昨年は盛岡南に連覇を阻止されましたが、再度新人戦の頂点に戻りました。なお、少数精鋭同士の対決となった3位決定戦は、互いに満身創痕の状態にも関わらず、前半でつけた点差を守り切った花巻北が勝利！1年生主体のチームで見事3位の座を手に入

しました。また、チーム唯一の2年生として頑張った阿部紘大選手が優秀選手に選ばれました。

女子の部は、地元・花巻南が、9月の高校秋季大会で優勝した盛岡南高を準々決勝で下し、堂々のベスト4進出。18得点中、一人で15点をたたき出した盛岡南主将の菊池理美選手(花巻クラブジュニア→厨川中)は、「勝ちたかった～！」と試合後悔しさをにじませてコートを後にしました。一方、延長戦の末、昨年の優勝校である白百合に勝利した盛岡二高が準決勝進出。迎えた最終日、花巻南は盛岡三高に対し、GK藤原選手以外1年生という布陣で臨みます。福岡芽依選手、大平紗瑛選手(花巻クラブジュニア→花巻中)などの得点で一時10点差をつけ、花巻南がそのまま勝利するかに見えた後半、盛岡三高のマンツーマンDFが功を奏し、一気に1点差まで詰め寄る展開に。しかし、7Mスローのチャンスを落ち着いてものにする、花巻南がリードを死守して勝利。ここ数年厚かった壁を打ち破り、徐々に決勝の舞台へ駒を進めました。決勝では経験の差が出たのか、不来方高相手に前半10点差を許すと、後半の巻き返しも追いつかず、22-17で不来方高が優勝の栄冠をゲット。男子と同じく、昨年逃した頂点の座に振り返り形となりました。



**おかげ様で100号発行！これからもよろしくお願ひいたします**

2006年1月、日本リーグ花巻大会の場内配布用冊子として産声を上げた本紙ですが、おかげ様で100回目の発行を迎えることができました。情報量としては多くありませんし、編集長一人の個人的道楽のような雰囲気も漂っておりますが、関係者皆様のご協力のおかげで誠に微力ながらハンドボール王国岩手からの情報発信の一躍を担っていると勝手に自負しております。今後ともご愛顧のほどよろしくお願ひ申し上げます。

L'aile d'Howl (ライル・ドウル)  
2014年11月号  
2014年11月25日発行  
発行:花巻市ハンドボール協会  
Special thanks to 皆様